

今後の伊根町立小学校の運営に係る住民説明会まとめ

【伊根地区会場】

日時	令和7年10月1日（水） 18時30分から19時50分
場所	伊根町コミュニティセンターほっと館 ふれあいホール
出席者	住民参加者 46名 報道関係 2社 伊根町教育委員会 教育長、教育次長、担当者

【本庄地区会場】

日時	令和7年10月4日（土） 18時30分から20時00分
場所	本庄地区コミュニティセンター 大会議室
出席者	住民参加者 35名 報道関係 1社 伊根町教育委員会 教育長、教育次長、担当者

1 開会 挨拶（岩佐教育長）

挨拶の要旨は、下記のとおりです。

夜分の出席、平素の教育行政の推進への高配について御礼申し上げる。

また、令和5年度、小学校教育の在り方審議会、令和6年度にはより豊かな学びが実現できる学校施設審議会2つの審議会を設置し、同審議会ではそれぞれアンケート実施、学校現場把握等の調査をいただき、委員各位に深く感謝申し上げる。

本日の説明会は、今後の伊根町立小学校の運営に係る伊根町教育委員会としての方針案を提示させていただくもの。ここ数年をかけて各団体の代表者の方々、学識経験者の方々に複数回にわたる会議に参加いただき、尽力を賜った。その結果、答申として貴重な意見を頂戴した。同答申を一つ一つ参考とし、教育委員会で協議した小学校の再編案を本日説明させていただく。

教育委員会は、本日説明する方針案を一方的に押し付けるわけではなく幅広く意見、疑問をいただき、伊根町で生まれ育った子どもたちの教育環境、伊根町がええ町として今後ますます発展していくための教育施設等の再編案を積み上げていく機会と捉えていただきたい。ただし、練り上げる時間も限られており答申でもあったよう、スピード感も必要と認識している。

審議会の中で委員の方の発言で印象に残ったものがあり、この場で紹介させていただきたい。ある委員の方は10年後、20年後に振り返ったとき、あのときああいう選択をしてよかったですと、一人でも多くの方が思ってくれるような結論にしたり、また別の方は一方に吸収合併される意識は避け、これまでの学校統

合の歴史をふまえ、両校の良いところを伸ばす形にしてほしい。また別の委員の方は、伊根町らしく地域とともにある学校を望む。このようにおっしゃった。その一つ一つに同感する。

本日、皆様から忌憚のない意見をいただき、同意見を教育委員会で受け止め、良い再編計画になるようにしていきたい。

2 経過・方針報告（教育委員会事務局）

資料「より豊かな学びが実現できる学校施設審議会の答申を受けた小学校設置計画に係る教育委員会方針について」にて、本説明会開催の経過、趣旨、より豊かな学びが実現できる学校施設審議会答申の概要、及び答申を受けた教育委員会の今後の方針について説明しました。

また、資料外の説明事項として、学校再編に必要な設計及び工事については、4年以上の期間が掛かる試算があり、なるべく早期に新校舎を使用できるようするため、学校再編についてのスケジュール及び対応について説明しました。

【学校再編時期】

令和8年度から本庄小学校校舎及び屋内運動場を解体するための設計を実施し、令和9年度に校舎等の解体工事を実施、解体完了後、校舎等の建設工事に入る。令和12年度から本庄新校舎を使用することを理想とするが、現時点で不確定要素も多く、予定外に延期することも考えられる旨説明しました。

【校舎工事期間中の対応】

本庄小学校が解体工事に入ることから令和9年4月を目指し、本庄小学校児童については、校舎完成までの間、伊根小学校に通学する対応を周知し、特にこの点について保護者の理解、協力を依頼する旨説明しました。

また、この間の通学は、本庄小学校校区の児童の通学について、スクールバス運行を予定と説明しました。

放課後児童クラブは、伊根地区及び本庄地区の2箇所での開所を継続し、伊根地区は現在の児童クラブ、本庄地区は、本庄地区コミュニティセンターでの児童クラブ運営を予定する旨説明しました。

【校舎完成後の対応】

校舎完成後は、令和12年度を目指し、再編した本庄地区の小学校に通学することとなり、遠距離通学の児童数が増加することから、スクールバスによる通学を拡充し、対応することを予定している旨説明しました。

再編後の放課後児童クラブについては、本庄地区の新校舎1箇所での実施を想定し、保護者の送り迎えの利便性を考慮し、伊根小学校校区の児童については、スクールバスにより伊根地区へ送り届ける対応を検討している旨を説明しまし

た。

【事業費試算】

小学校再編に係る費用について

- ①現在、校舎と屋内運動場とともに新築する案
- ②校舎を長寿命化し、屋内運動場を新築する案

の2案を検討していることを説明しました。

①案について、あくまで現時点での試算値として、事業費約21億円、これに対する国庫支出金を約6億8千万円、地方債約5億円となり、残りを町の一般財源から支出予定と説明しました。

②案について、校舎を新築する代わりに校舎に長寿命化改良工事を施し、また不足する面積を増築、屋内運動場を新築する事業と説明し、事業費約20億円、これに対する国庫支出金を約5億8千万円、地方債約4億6千万円となり、残りを町の一般財源から支出予定と説明しました。また2つ目の長寿命化工事の案については、校舎の増築が必要となり、必要な面積は、現在の本庄小学校の面積のおよそ1.7倍程度を見込んでいる旨を併せて説明しました。

最後に、別添資料として用意した児童生徒数の推移について説明し、経過・方針報告を終了しました。

3 意見交換

参加者に意見、質問等について発言を求め、事務局が回答しました。以下やりとり。

【10月1日 伊根地区会場】

- ・本庄小学校はグラウンドの水はけが悪く、状態があまり良くないと聞いたことがある。グラウンドはそのまま使う予定か。

→新築案の場合、一旦校舎を解体した上で、本庄小学校グラウンドを含めた敷地内で新たな新校舎及び屋内運動場を配置することとなる。具体的な配置は検討段階で、現状のグラウンドの場所に校舎を建てる運用もあり得る。本庄小学校グラウンドの水はけが悪いことは当方も認識しており、新築工事の際には何らかの対処ができるべきと考えているところ。

・何点か質問する。

- ①施設審議会の名称が「より豊かな学びが実現できる」とあるが、どのようなものか。
- ②本日の説明会では統合という文言がなかったがなぜか。
- ③審議会での議論で人口減少による小学校と中学校の一貫教育が出てきていないがなぜか。

④統合場所について反対はしない。交流施設がなくなれば、地域が衰退するということも考えたりするので。だが、教育上の立場から何故審議会は本庄としたのか、本日審議会の会長が臨席していないがそういう疑問に答えるべきでは。

⑤配付資料においてスケジュールの記述がなく隠されていることは不愉快で納得いかない。

→個別に回答する。

①より豊かな学びができる学校施設とは小学校施設を指し、建設40年経ち長寿命化、新設等の方向性について審議いただいたもの。

②統合とは答申内容に基づき報道発表された文言であるが、教育委員会としては、伊根町立学校を2校から1校に再編するという表現を用いている。

③教育委員会として小中一貫校というより、小中連携の方針で進めていく方針を持っているところ。

④施設の有無にかかわらずまちづくりとして地域を盛り上げていくことが町の施策であると考える。審議会の会長の臨席についての質問については、諮問答申までが職務であり、同答申を受けた方針の作成は行政の職務。混同のないようお願いしたい。

⑤資料にスケジュール案がないことについては、現時点で流動的であるため。本日資料としてお見せできなかったことについてお詫び申し上げる。

・意見表明と確認をしたい。確認事項として、工事等のスケジュールが4年間という説明があったが、総合教育会議で町長を含めた方針が固まり、そこでスケジュールが確定し、具体的に説明できるという認識でよいか。また、スクールバスの運行について台数が増えることとなり滞りなく運営できるか不安がある。意見表明として審議会において教育について深く考えていただいた結果本庄での再編については大変素晴らしいと思う。

→4年間という期間は、設計が2年で、小学校の施設の大まかな形、教室の配置、グラウンドの位置、体育館位置等を検討する基本設計が1年。その後基本設計に基づくより詳細な図面作成におおむね1年かかる。

建設工事は、現時点で事業費約20億円と事業費を見込んでいるが、昨今の物価高騰により、今後上がっていく可能性もある。工事期間は約2年程度で、合わせて4年。予算の関係もあり年度でいうとおおむね4年度となるかというところ。一刻も早く再編できるよう、その4年間を縮めていきたい思いがある。スクールバスの運行については、現行のバスの台数では足りなくなるため、増車を予定する。

・新設案が事業費21億円、長寿命化案が事業費20億円で同程度であれば新設した方がよいと感じた。解体工事費はどのようであるか確認させていただき

たい。また子どもの年齢を考えて早く再編してほしい。

→解体工事費は、試算経費の内に算入している。長寿命化工事は、イメージとして現在の施設をほとんどコンクリート柱のみとすることから解体の工事費も長寿命の工事も同等の費用がかかる想定。新築は21億円、長寿命化工事費20億円というのはそれぞれ解体工事費も含めての金額。再編を一日も早く実現できるように頑張りたい。

・総合教育会議というのは耳慣れないが、これまで設置されて機能していた会議か。それとも今回の統合に向けて設置されたものか。会議の構成員はどのようなものか。

→町長部局と教育委員会の連携を目的に例年開催しているもので、今回の再編のために新たに設けた組織ではない。構成員は、町長及び教育委員会で、事務を教育委員会が所掌するもの。

・本日の説明会は小学校再編をするか否かの説明であり、そこに意見できるのは11月のパブリックコメントまでと考えているがどうか。新しい小学校を設計していくにあたって、その中の設備が今後の教育内容に非常に影響をしてくると思うが、大きな枠組みというより細かな設備のほうで、私たちの意見が反映されるのか。されるのであれば、どういったタイミングか。

→前段お見込みのとおり、パブリックコメント中にご意見がいただきたい。後段、設備等については再編準備委員会(仮称)という機関にて検討することを想定。

・今後人口が1000人になって、児童生徒を合わせて50人というグラフがある。小中一貫にはならないか。伊根中学校の駐車場にプレハブを建てて校舎とすることはできないか。10年後20年後に10人で通う学校になって、よかつたとなるか。

→教育委員会として駐車場に校舎を建設する予定はない。

平成15年頃、伊根小学校と本庄小学校の合併の話が出た際、幾度も住民説明会が開催され、合併がなくなった話を聞いている。今回、この住民説明会とパブリックコメントのみで再編を決定するのは拙速に過ぎないか。

→教育委員会としては、これまでの2審議会を経て3年間、検討を続けてきたと考えている。前回の事情を十全に認識しているわけではないが、慎重に審議を尽くしたもの。

住民への丁寧な説明ということだが、1回の説明会で、既定路線で進むように思える。

→結論を押し付ける意図はない。これまで段階を経て保護者の意見を吸い上げ

た審議会を開催し、丁寧な議論の上に立った説明会であると認識している。

審議会は、会長が1名選出されて合議ということとなるが、私の所属する組織の意思決定は合議を経られるようにはなっていない。団体の長の集まる合議体のほかにも住民説明会での議論は必要と考える。ここまで私の意見でも教育委員会の方針は変わらない。地区間の小学校の移動は住民にしこりが残る。本庄小学校を残し、伊根小学校と伊根中学校を統合した方が良いと考える。
→意見として受け止める。既定路線でなく、見通せないことで、決まったことではない。他にも異なった意見がある可能性がある。所属する組織の話については、組織の課題であり、今回の件とは論点が異なる。

・資料にパブリックコメントに向けて住民説明会の修正案を、と書かれているが、どのように修正するのか。

→いただいたご意見を基にパブリックコメント時の方針を修正するべきところは修正するということ。

2校を1校とする方針だが、具体的にどのように修正するのかということを尋ねた。

→いただいたご意見を基にパブリックコメント時の方針を修正するべきところは修正するという以上の回答は困難。

・今回の方針は保育所の保護者の意見を汲み取ってもらった形と思う。10人保護者がいれば1人2人は反対の意見がある。代表に託すというときに、多数決が大事かと思う。小学校の議論において審議会という機関を設けて議論があったことに感謝すべきと思う。審議会がなければ2校を残して長寿命化をする案で進んでいたかもしれない。答申通りの方向性で進んでいくかという観点で、住民は目を光らせるべき。私は感謝している。

【10月4日 本庄地区会場】

・施設設置計画について、本資料では1次案となっているが、2次案は考えているか。総合教育会議で協議し、本庄小学校の現在地に新設校を設置するという計画が廃案になることはあるか。

→本資料時点を1次案としており、今後、本日の住民説明会、パブリックコメントを経ていただいた意見を踏まえて2次案以降に進んでいく。その案を総合教育会議に諮り町長部局と協議し、町議会の議決を経て施策として形にする。最終的な結果は現時点で見通せないが、これまでの3年にわたる議論を踏まえ、教育委員会として本案を実現したいと考えている。

・工事期間中、本庄小学校区の児童が伊根小学校に通う期間が長く感じる。本庄

の保護者にとって影響が大きく、再編後の詳細なスケジュールを説明会資料として提示してもらいたかった。

- ①工事スケジュールは短縮される見込みはあるか。
- ②教育内容の再編が気になる。今後、誰がどうやって進めていくのか。
- ③令和9年度に本庄小学校から伊根小学校に通うこととなるが、本庄小学校の児童に負担がかかると思われる。
- ④資料に「少人数による競争力の低下等の課題」とあるが、どういう課題であるか。再編後も児童数は減少傾向で、小規模、少人数になっていくと思われる。本庄小学校にはこれまで積み上げてきた少人数教育の経験があり、課題感は感じていない。
- ⑤地域学習、地域教育は伊根町として一番大切だと思っている。その充実を図ってもらいたい。

→①建設工事について、期間短縮の見込みがあるかという点については、現在、建設業界の働き方改革の推進が進んでおり、また建築士等の技術者が減少傾向であることから、複数の事業者からのヒアリングをもとに予定している工事期間は現状のスケジュールから短縮することは困難かと認識しているところ。

②教育委員会としても教育内容の再編が一番大事であるということは重々承知しているところ。再編の有無は別にしても、2小学校の教育内容を熟慮し、同水準の教育を提供して中学校につなげていく教育課程とする必要があると認識している。今後、施設を一つにして、環境が変わる中、教育課程の中身が変わる部分について児童に負担をかけずにできるか、これはやるしかないという気概でいるところ。再編準備委員会（仮称）を立ち上げて教育課程を整理し、学校施設の設計と併せて100点満点を120点とするために皆様の知恵、力を借りながら進めたい。

③特に本庄小学校の保護者、児童の方について、伊根小学校に通うことについて大変負担がかかる、不安があるということは教育委員会としても認識をしているところ。その間の児童、保護者、教職員も含めてのケアについては、教育委員会としても計画に明記し、実行していきたいと考えている。具体的な方策は、小学校再編準備委員会（仮称）組織を通じて検討していきたい。

④本庄小学校では、複式学級でどのように授業を展開すれば子どもたちがより主体的に学んでいけるか、教科も絞りながら実践しており、少人数イコール競争力、学力が伸びないと短絡的に結びつけることはしない。しかし、人数が多ければさまざまな授業形態、意見交流できる機会は確かにあるだろうという考えが前提にある。少人数の中での授業の工夫等、教職員が知恵を絞り実施している取組は継続し、積み上げてきた成果がゼロベースに戻ることが決してないよう考えている。

⑤地域教育の大切さは教育委員会としても認識しているところ。児童が地域に

出て、また逆に地域の方が学校に足を運びやすい施設を整えることで、教科の点数だけでなく、人間的な生き方も含めて探求できる、地域と一体になった教育は再編後もさらに充実できると考えている。伊根小学校区と本庄小学校区の保護者の方、伊根町全体の地域の方々に、一つになった小学校の児童を支えてもらう、そういうシステムを目指している。

再編準備委員会というのは、どういった構成員となるか。
→現役の教職員、地域の方、また教育に関する専門的知見を有する方、P T A 等の保護者の方を現在、構成員として想定しているところ。

- ・私は伊根中学校と本庄中学校が統合したときに中学生だった者。統合当時、統合するまでの間、両校で交流の場がなく、どんな子がいるか、全くわからない状態で急に統合となり、大きなギャップを感じていた。今回、本庄小学校の児童が伊根小学校に通学するまでに両校交流の場はあるか。
- 現在、修学旅行や社会科見学等の行事は、両校一緒に実施しており、普段から一定の交流はしているところ。再編にあたり、次年度の学習については交流を一層強めていきたいと考えている。

追加で、私たちの時も普段の学習で同様の交流はあったが、同学年だけであり、先輩、後輩の存在、全校で何人の生徒がいるのかという情報がなかった。別の学年との交流、例えば運動会を一緒にするなどの取組は考えているか。
→運動会については、最後の運動会を一緒に実施というのは難しいかとの思いがあるところ。異年齢の交流については課題として認識し、次年度の教育計画策定の際、各学校に同意見を伝達し、組み込めるようにしたい。

- ・私は筒川地区に住んでいる者。かつて筒川地区に小学校が2校あった。それが1校となり、現在はなくなり本庄小学校に統合となった。学校というのは児童、保護者だけでなく地域のものであると思っている。地域に学校がなくなると寂しい思いをすることになる。これからの中学生もが勇気を持って私たちは本庄小学校を卒業したんだ、と胸を張って卒業できるような子どもを育てるため、地域が一緒になって頑張っていかなければならない。
- 教育委員会も同意見で、学校は子どもと保護者、また教員だけのものとは思っていない。過去、人口減少により数が小さい学校が多い学校へ吸収合併されるような形というような統合があったのかと思う。今回の提案は、人数が多い学校が少ない学校の立地する場所に行くこととしている。地域の方々には、教育資源の提供等、支援をいただき、また町の施策とも連携しながら子どもたちのために伊根町のために学校を支えていただきたい。

・①新校舎完成まで4年というのは、早いなという印象。設計が1年でできるのか疑問があり、時間をかけて内容を詰めた方が良いのではないか。保護者を含めて再編準備委員会（仮称）を設置するということだが、保護者の意見をしっかりと入れていただきたい。

②少人数による競争力の低下等の課題について、本庄小学校に複式学級があり、十分な教育ができていない印象を持たれることもあるが、実際は教科担任制のような体制をとっていると聞いており、理想の教育の形に思える。今後児童数が減少する中、本庄小学校の在り方をモデルとして取り入れてもらいたい。

③校舎建設中、本庄小学校区に放課後児童クラブを設置する件について、異なる校区の児童クラブの利用について、柔軟に対応していただきたい。

→①工事の全体計画が4年で、設計は2年。そのうち基本設計が1年、詳細設計が1年。建設の工事が2年で計4年という想定。設計は、大まかな配置等の考える基本設計に1年かけ、その内容について意見をいただく。そこから、実際建設するに当たり金額面等を確定させる詳細設計に1年で、設計に関しては2年を予定しているところ。

②本庄小学校ではなるべく6年生が複式でない環境で学習できるようにいうことで、教科の担当教員を柔軟に割り振りしているところ。先の回答のとおり、これまでの少人数教育の取組がゼロベースになることがないよう教員のスキル向上を継続したい。

③本庄児童クラブについては、本庄地区コミュニティセンターで開設を予定しており、本庄地区在住の方については本庄地区での利用を想定しているところ。異なる校区での利用については検討させていただきたい。

・伊根小学校は危険な状態と感じている。また教室数、グラウンドの面積は足りているのかという感想を持つ。観光客も敷地内に入ってくると聞いており、安全性が確保できるのか。また、放課後児童クラブに本庄地区コミュニティセンターを使用するということだが、部屋数が少ない中で一般の住民の利用が制限される可能性を心配している、という感想。意見であり回答は不要。

→1点、伊根小学校が危険だということについて、現在、侵入については、無理に侵入してくるということではなく、教員が注意したらすぐ去ってもらえる状況。警察と協議し、あまりにも悪質な者について、警察がどのようにして対処できるか検討しており、それがまとまり次第、警察の協力を得て指導等の対応を求める考えているところ。

・①伊根小学校は、観光客がグラウンドに入っているのを何度も見ている。本庄地区の立地は良いと感じている。新設する本庄地区の校舎には防犯対策を施してほしい。

②また、本庄小学校区の児童が伊根小学校に通う期間を短くするため、新築でな

く改築等で工事時間短縮はできないか。

③小中一貫校は検討しないか。

→①防犯について、昨今の教員の不祥事を受け、教室に防犯カメラを設置するという動きをしているところもあるという。本庄の地に新校舎が建った際、内外の防犯対策をどこまで講じるか、費用との関係も踏まえて考えていきたい。併せて、中にいる児童が不安を感じない、安全が守られる対策としていきたい。

②改築については、本庄小学校・伊根小学校とも築40年を超えていた。それぞれの劣化度調査し、工事内容は例え壁を全部取るなど、解体と変わらない状態の工事をする必要があり、新築と比較して工期はほとんど変わらない。現時点では、より適切な配置を検討できる新設をしたいと考えているところ。

③小中一貫校については、伊根地区の説明会でも言及があったところ。児童数が減つていけば一つの校舎で事足りるという発想かと思う。教育委員会としては、魅力的な小学校施設とすることによって、流入人口を増やし一定の児童数を維持できるよう、町長部局とも連携していきたい。それでも児童数が減り、ニーズが高まった場合検討する必要があるが、今の段階では、小中連携して2つの学校施設で連携し合いながら教育の充実を進めていきたい。

・配付資料によれば、令和22年には小中学生が50人以下になる試算が出ている。中学校もある程度一緒にする余地を残し設計すべきではないか。数十年先のことではなく15年後のこと、悠長と思う。

現在の中学校施設は築10年程度で、今後数十年後も使えるという状態か。

→中学校施設について、国が長寿命化工事を推進する中、学校施設については建築40年経過後、さらに40年続けて使えるよう、長寿命工事を行い、計80年使っていく考え方。中学校は、新しい施設であり、これからも改修した上で活用していきたい。今回の設計について、今後を見据えた設計をすべきという意見については、答申においても、今後人口が減少して子どもが少なくなる中、他の用途にも活用可能な形での施設とすることの提言があったところ。教育委員会としても、社会教育、図書施設、その他地域のコミュニティ機能を有した施設とする等、無駄なく施設を活用できる形で施設マネジメントを進めていきたいと考えているところ。

・校舎完成までの間、伊根小学校に通うということだが、体育館が危ないと聞いたことがある。対応はあるか。

→伊根小学校、本庄小学校とも長寿命化工事にあたり、耐力度調査を実施し、耐震性については問題がないという結果が出ているところ。長寿命化工事を実施するための耐力度が基準を下回り、長寿命化工事が実施できない状態であるということであり、耐震性については基準を満たしているという状態。ただし、建築から年数が経過している建物であるので、適時必要な修繕はしていく

必要があると認識している。

- ・今回、校舎建設中は本庄小学校区の児童は伊根小学校に通うということだが、伊根中学校の新校舎を建てる際、生徒の移動はあったか。もう一点、新校舎建設中、児童は卒業した場合、本庄小学校の卒業になるのか、伊根小学校の卒業生になるのか。

→伊根中学校建設当時、伊根中学校区の生徒は、1年程度本庄中学校に通っていたもの。学校名称については、令和9年度に小学校再編を予定することから、令和8年度は別々の小学校なので伊根小学校卒、本庄小学校卒となる。令和9年度の4月に伊根小学校に通う段階で小学校も再編しており、教職員の数も1校に見合った人員となる。そこからの学校名称は未定であり、十分に検討できていないところ。

- ・先ほど競争力という話も出たが、競争力について問題を感じてない。ただ、仕事上子どもと関わることが多い中で、異年齢の交流ではなく、同級生の中で自分とは違う意見を聞く機会が限られていると実感している。他地域の小学校であったスピードでの統合はよくないと思っているが、今回、一定見通しを持って本方針を出したことを私は良いと思っている。どのような結果であれ、さまざまな立場の人からさまざまな意見があると思うので、伊根町の子どもたちが伊根町で育っていく中で、社会に出る前にどのような教育の場を自分たちが与えてもらったかというところを考えていくてほしいと思う。それを踏まえ、小中学校生のアンケートを取ったとあったが、それは、子どもたちにどのようなアンケートを取ったのか伺いたい。

→アンケートについては「より豊かな学びが実現できる学校施設審議会答申別編資料」として実際に小中学生に取ったアンケートの内容を添付しているところ。具体的にどのような回答があったかについては、答申に記載があり、確認いただきたい。設問の例として、中学生について、「あなたが小学校での学習や活動をした学習を思い出してください。その中から大切にしていたことを3つ選んでください」という質問項目に対して、1から10までの項目があり、小学生時代どのようなことが大切であったかなどの問い合わせがあったもの。

4 閉会

教育次長から本説明会の質疑応答等の内容は町HPで公開する旨を説明し、閉会。